

【評価の基準】 A：達成できている B：概ね達成できている C：あまり達成できていない D：全く達成できていない

学校教育目標	質実勤勉な気質と自由闊達な精神を校風の基調とし、さらに豊かな教養と高い知性を養い健康な身体に鍛え、広い視野に立ち責任と協力を重んずる民主的かつ有為な社会の形成者を育成する。	総合評価 生徒の授業を受ける姿勢は落ちついており、クラブ活動にも活気がある。地域の方々・同窓会・PTA等のご協力・ご支援もあり、生徒たちは落ちついた学校生活を送っている。各係が分野ごとに行った自己評価は下表の通りである。概ね所期の目標に到達していると考えられるが、それぞれに課題の残る項目もある。今年度より、高大接続・高校教育に係わる改革について研究・検討を始め、来年度に向けて、少しずつではあるが対応策を出すことができた。来年度は更に研究・検討を深め、より具体的で教育効果が上がる対応策を考えていきたい。また、学校を中心とする学習活動・進路指導についても、今年度の成果の上に、来年度以降も工夫を重ねる必要がある。来年度は今年度の課題を重点に据えて、さらに教育力の向上をめざしたい。																		
	重点目標(中・長期的目標) ◇保護者・地域との連携を深め、信頼を得る学校づくりをおこなう。 ◇社会の形成者として必要な規範意識の涵養とマナーの向上及び協働意識の育成を図る。 ◇生徒一人ひとりの興味・関心、能力・特性に応じた適切な指導・支援を行うことで、豊かな人間性を養い、社会を担う人材を育てる。																			
今年度の重点目標	◇いじめ・体罰のない学校づくりを推進する。特にスマホ、インターネットの利用にはその危険性を理解させ、犯罪の被害と問題行動につながることをないよう未然に防止する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果と課題</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いじめ・SNSの問題は、拡大する前に指導の手を入れることができた。生徒の相談や訴えから問題が明らかになり、生徒自身の問題意識が高まってきていると考えられる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>継続的に働きかけを行い、生徒の規範意識・問題意識がさらに高まるよう支援していきたい。また相談しやすい環境を整え、問題を早期に認知できるよう図りたい。</td> </tr> <tr> <td>「高大接続改革」について、今現在の全体像や改革プラン等の周知を目的とした職員研修会を行った。(4月) また、大学入学者選抜改革のポイントや、デジタル調査書・eポートフォリオ等の研修等も行い、探究学習充実をはかるため、次年度の日課変更を職員会で決定した。(1月)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>大学入学者選抜改革については、未だプラン等がはっきりしていない部分があるが、教育課程委員会と密に連携をとりながら、学校全体の教育課程の理念や各教科の要望をまとめた「平成31年度入学生用教育課程」編成に協力していく。また、探究学習については、学習指導係と共に、RESASU事業を活用しながら計画などを進めていく。</td> </tr> </tbody> </table>	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	いじめ・SNSの問題は、拡大する前に指導の手を入れることができた。生徒の相談や訴えから問題が明らかになり、生徒自身の問題意識が高まってきていると考えられる。			○		継続的に働きかけを行い、生徒の規範意識・問題意識がさらに高まるよう支援していきたい。また相談しやすい環境を整え、問題を早期に認知できるよう図りたい。	「高大接続改革」について、今現在の全体像や改革プラン等の周知を目的とした職員研修会を行った。(4月) また、大学入学者選抜改革のポイントや、デジタル調査書・eポートフォリオ等の研修等も行い、探究学習充実をはかるため、次年度の日課変更を職員会で決定した。(1月)			○		大学入学者選抜改革については、未だプラン等がはっきりしていない部分があるが、教育課程委員会と密に連携をとりながら、学校全体の教育課程の理念や各教科の要望をまとめた「平成31年度入学生用教育課程」編成に協力していく。また、探究学習については、学習指導係と共に、RESASU事業を活用しながら計画などを進めていく。
	成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策													
いじめ・SNSの問題は、拡大する前に指導の手を入れることができた。生徒の相談や訴えから問題が明らかになり、生徒自身の問題意識が高まってきていると考えられる。			○		継続的に働きかけを行い、生徒の規範意識・問題意識がさらに高まるよう支援していきたい。また相談しやすい環境を整え、問題を早期に認知できるよう図りたい。															
「高大接続改革」について、今現在の全体像や改革プラン等の周知を目的とした職員研修会を行った。(4月) また、大学入学者選抜改革のポイントや、デジタル調査書・eポートフォリオ等の研修等も行い、探究学習充実をはかるため、次年度の日課変更を職員会で決定した。(1月)			○		大学入学者選抜改革については、未だプラン等がはっきりしていない部分があるが、教育課程委員会と密に連携をとりながら、学校全体の教育課程の理念や各教科の要望をまとめた「平成31年度入学生用教育課程」編成に協力していく。また、探究学習については、学習指導係と共に、RESASU事業を活用しながら計画などを進めていく。															
◇高大接続、高校教育に関わる改革について研究を進め、具体的な対応を始める。																				

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教育	教育課程	高大接続改革のひとつとして導入予定の評価テスト等に向け、生徒・保護者および地域が期待・要望し風越高校の特色を生かせる教育課程の検討を進め、提示していく。	次年度の新2,3年生の文理分けや講座選択において、生徒の進路や興味・関心に応じたコース等の提示ができたか。	昨年度からの1クラス減に伴い、文理比率や開講が可能な講座数などが今までと異なり、調整等で難航したが、概ね生徒の希望に応じた講座編成が出来た。			○		毎年のことだが、2学期は諸行事や修学旅行事前学習等で、LHRを活用しての指導等がなかなか難しい。早めに学年の担当者や工程表を作成し、学年と綿密に連携をとって進めていきたい。	
			平成32年導入予定の評価テストや能動的な学びに対応した来年度入学生用教育課程の編成を行うことができたか。	高大接続改革に伴い、入試方式や高校教育が大きく変わろうとしている。その全体像や詳細な改革プラン等がまだ十分に確認が取れていないため、来年度入学生用教育課程を改編し、提案するところまでできなかった。		○		昨年度新設した高大接続改革研究委員会が中心となり、高大接続と高校教育改革について研究を行い、まずは来年度の日課について変更を行った。それを受け、学校全体の教育課程の理念や各教科の要望をまとめ、平成31年度入学生用の教育課程の編成を早急に進めていきたい。		
		学習指導	学力の向上を図るために学習習慣の確立に努める。また高大接続改革の研究をふまえて、総合的な学習の時間の在り方について検討していく。	家庭学習の充実を図ることができたか。	学習記録の確認や、学習実態調査を通じて生徒の家庭学習時間の把握を行ったが、2年次に学習時間が減少してしまう生徒が多いことが課題である。			○		予復習のあり方を繰り返し生徒に確認させ、時間だけでなく内容の向上を図る必要がある。
				講座の特色を生かした授業展開はできたか。	国際教養科では特色を生かした各種取り組みがなされた。3年生の文系国公立コースでは、生徒相互に切磋琢磨し合う雰囲気作りができていた。		○		それぞれの進路実現に向けて、学年や進路指導係と連携しながら、今後も生徒の意識向上を図るとともに授業内容を工夫していく。	
			効果的な補習授業(土曜・平日)はできたか。	進路実現に向けた土曜補習や、平日の基礎学力補充のための補習など生徒の実態に合わせた授業を行うことができたが、冬期の参加人数の減少は課題である。			○		年度当初に、担当教科だけでなく、全職員で補習授業の目的や意義について再確認し、共通認識を持って協力して行けるようにしていく。	
			職員間で総合的な学習の時間の在り方について、検討を進めることができたか。	新テストの方向性もなかなか定まらなかったこともあり、今年度は具体的内容についての検討はあまり進めることができなかった。			○		時間割の変更を効果的に生かせるような総合的な学習の時間のあり方を、新1学年や進路係とも協力して検討していく。	
	進路指導	進路希望に合わせた情報の提供と指導を行う。	生徒の意識の高揚を図りながら進路希望に沿った指導ができたか。	進路室に来る生徒たちにはそれなりに対応できた。1・2年生に対する具体的な提供を充実させたい。			○		能動的に生徒が、探求できるような場をどのように提供していくかを模索していきたい。	
		職員間の進路情報、指導法の共有を図る。	「基礎テスト」「評価テスト」へ向けての理解と取り組みを行うことができたか。	進路に直接関係のある3学年が中心であった。共通テスト対策への取り組みは、情報収集に翻弄され、取り組み、指導法の共有は不十分であった。			○		共通テスト・基礎テストに向けた新学年の年間の進路の流れと、2・3年の年間計画を有機的に結びつけていく必要がある。	
		キャリア教育の課題を具現化した進路指導を行う。	進路実現に向かったキャリア教育の取り組みができたか。	夏休みに参加した生徒たちは、有意義な体験ができた。より多くの生徒たちに、様々な社会体験をできる場を提供していきたい。			○		総合的な学習の時間を活用しながら、飯田市等地方公共団体、社会協議会、青年会議所、公民館等と連携を深め、地域への認識を深めていきたい。	
	生徒指導	社会規範・交通規則・校則を守る意識を高め、いじめのない自律的な学校生活を送れるよう支援・指導を行う。	いじめ案件などにすぐに対応できたか。	いじめと考えられる事案はいくつかあったが、問題が大きくなる前に指導の手を入れることができた。			○		職員が、生徒の変化を見逃さずに声をかける意識を高くもち、職員同士が相談しやすい環境をさらに広げたい。	
			規範意識が高められたか。特にSNSの危険性について理解が深まったか。	生徒の持つ規範意識に加え、講演会による全体への投げかけは効果があり、大きな問題として表面化することはなかった。			○		生徒自身がトラブルを見つけたり回避したりできる力を身につけさせたい。	
		地域・家庭との連携をはかり、安心・安全な環境を維持し向上させる。	地域・家庭との信頼関係を深めることができたか。	SNSに関する講演会や文化祭後の見回り等を行い、保護者との関わりを持つことができた。				○	行事等を通じ、学校や生徒の様子を知っていただきながら、一層の関係を深めたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	教育相談	教育相談態勢の充実をはかる。	職員間で共通認識を持ち、適切な支援ができたか。	学年会・係会で心配な生徒について取り上げ共通理解を図ったが、情報交換が不十分なこともあった。		○			さらに職員間の情報交換を密にし、心配な生徒の対応を早めに行いたい。
			関係機関の活用、連携ができたか。	生徒のカウンセラー相談件数は少なかったが、保護者への周知により、関係機関を利用した保護者もいた。		○			関係機関について、生徒・保護者への周知をさらにすすめて、支援の充実を図りたい。
	生徒会	自治活動としての支援をはかる。	委員会、クラブ、風越祭など充実して行えたか。	風越祭は、開催時期が変更しての2回目ということもあり、準備・運営のノウハウができてきた。委員会、クラブも概ね充実している。		○			特別活動は「学習活動との両立」という大前提を踏まえ、職員の共通理解の下、適度な支援を行っていききたい。
			地域に根ざした活動を目指す。	ボランティア活動などを中心に、地域に出て活動ができたか。	本年度は、地域へ出かけてのボランティア活動に、生徒会役員だけでなく、公募による一般の生徒も参加することができた。		○		
	保健	自己の健康課題を把握し、健康の保持増進に主体的に取り組む力を育てる。	健康診断等において疾病の早期発見に努め、早期治療につなげることができたか。	貧血検査では、7名の要受診者を発見できたが、検査によって具合が悪くなる生徒が続出した。		○			貧血検査の対象者の選定方法や実施方法について検討していく。
			季節に合わせた体調管理ができるよう、啓発活動を行うことができたか。	掲示等による啓発をおこなう事はできたが、冬場の短いスカートなど、生徒自身に自分の体調管理を考えさせる必要がある。		○			冬場の短いスカートなど、生徒自身に自分の体調管理を考えさせる活動を行いたい。
			年間を通して感染症の予防に努め、校内での感染症の蔓延を最小限にとどめる取り組みができたか。	冬場はインフルエンザの予防啓発を保健委員会を通しておこなった。		○			学校全体として感染症の蔓延を防ぐ取り組みを考えていきたい。
	図書	図書館の利用促進をいっそう図る。	図書館の情報発信とともに、資料閲覧、調査、貸出が円滑に行えたか。	高校教育に関わる改革についての資料も準備し、貸出等を円滑に行うことができた。		○			改革の具体的な内容に即した資料を今後も集めて閲覧、貸出が行えるようにしたい。
	視聴覚	視聴覚教育の充実を図る。	芸術鑑賞が生徒たちの情操を豊かにするものであったか。	演目のミュージカル「げんない」は、音楽・演劇・ダンスを含む総合芸術としての壮さが十分生かされ、生徒からの評判も非常によく、有意義な公演であった。		○			来年度の演目（落語）は複数の担当者が下見を行い決定した。事前・事後学習をさらに充実させたい。
	人権平和	基本的人権と人間の尊厳を尊重し、けって差別・偏見・いじめを容認しない。平和や真理を希求する人格を育成し、人権尊重の実践を目指す。	平和学習や研修旅行体験を通じて、戦争と平和について学び、国際社会の中で日本の果たす役割を考えることができたか。	ここ5、6年間戦争を扱った学習が続いたので、今年度は性同一性障害に関する講演を企画した。昨今、性同一性障害の問題は世界だけでなく、日本においても解決しなければならない問題であるとともに、正確な知識や理解が必要とされている。生徒にとっては、性的少数者の苦悩と接し方を直接聞くことができた有意義な講演であった。		○			戦争や平和だけでなく、幅広く人権問題に関わるテーマを扱っていききたい。そのためには、できるだけ早い段階から、内容について企画しておく必要がある。
いじめや命の尊さについて学び、人権感覚を磨き育むことができたか。			性同一性障害について、初めて知った生徒にとっても心に届く内容であり、講演の内容に関しても好意的に受け取った様子が見られた。		○			あらゆる人権問題の根底には、無知が大きく関わっている。事前、事後学習の充実をはかっていきたい。	
学校運営	保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。	PTA活動や学校評議員会の意見を学校の教育活動に生かすことができたか。	地区懇談会は7割近い出席者で開催できた。その他、学年、学級PTAや学校行事で出た意見等を全職員で共有し教育活動に反映させた。また、学校評議員会の意見も教育活動に生かすことができた。		○			PTAから出される意見の中ですぐに対応できるものは対応しているが、教育活動の根幹に関わる意見も多く、対応に時間のかかる場合も多い。年間の中で計画的に対応していききたい。	